

敬老の日に「火の用心」の贈り物 「住宅防火・防災キャンペーン」

予防課

○ 住宅防火・防災キャンペーンの実施

近年、住宅火災における死者数は、900人前後の高い水準で推移しており、このうち約7割が65歳以上の高齢者となっています。

また、高齢化の進展とともに、住宅火災による死者の内高齢者の占める割合が増加していることから、消防庁では、「敬老の日に『火の用心』の贈り物」をキャッチフレーズに、改めて高齢者とそのご家族の方々に、火災予防の取組を行うよう注意喚起するとともに、高齢者に住宅用防災機器等をプレゼントすることなどを呼び掛ける「住宅防火・防災キャンペーン」(キャンペーン期間：9月1日～21日)を平成24年から実施しています。

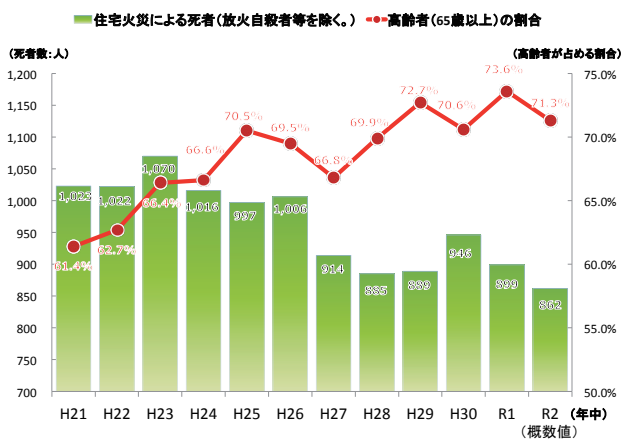
スプレー式で高齢者でも扱いやすい「エアゾール式簡易消火具」といったものも販売されています。特に高齢者がいるご家庭には、このような器具を備えておくことをお勧めします。

(3) 防災品を使いましょう

死者が発生した住宅火災で、最も多い出火原因は、たばこによるものです。なかでも寝たばこにより発生した火災で多くの死者が発生しています。

また、調理中に、コンロの火が衣服に燃え移ることにより亡くなる高齢者もいます。このような火災による死者を減らすため、枕・布団などの寝具やパジャマやエプロンといった衣類に燃えにくく作られた「防災品」を使用することをお勧めします。

住宅火災による死者数と高齢者の割合



○ 高齢者を住宅火災から守るために

(1) 住宅用火災警報器を点検しましょう

住宅火災で死者が発生する要因のうち多いのは、発見が遅れ、気づいた時は火煙が回り、既に逃げ道がなかったと思われる事例が多く報告されています。このため、火災の発生を早く知るために、現在、各自治体の火災予防条例で寝室や台所等に「住宅用火災警報器」を設置することが義務付けられています。この「住宅用火災警報器」の電池は、約10年がその寿命とされており、また、故障する可能性も考えられることから、定期的な点検が必要となります。是非この機会に高齢者の家に設置されている「住宅用火災警報器」を、高齢者の代わりに点検してあげましょう。

(2) 住宅用消火器を用意しましょう

火災が発生したときに「消火器」で初期消火を行うことは、被害を最小限に食い止めるためにも非常に重要です。消火器には、小さくて軽い「住宅用消火器」や、

住宅防火・防災キャンペーン

敬老の日に「火の用心」の贈り物

住宅用火災警報器

住宅用消火器

防災品

消防庁

身近な防火・防災プロジェクト

住宅火災による死者数と高齢者の割合

住宅用火災警報器

すべての住宅に設置が必要な住宅用火災警報器。電池切れで万が一の時に作動しなかったということがないよう、定期的に作動確認することが大切です。

いざという時に備えて住宅用火災警報器等(住宅用火災警報器・住宅用消火器・エアゾール式簡易消火具・防災品など)を身近に備えましょう。

住宅火災による死者数と高齢者の割合

住宅用火災警報器

消防庁

身近な防火・防災プロジェクト

問い合わせ先

消防庁予防課 佐藤・藤本
TEL: 03-5253-7523